

〜にしかた巡行記最終回〜
「にしかたの観光を巡る」

最終回のテーマは、西方町の観光です。西方町には金崎のさくらや、八百比丘尼公園など様々な観光スポットがありますが、その中でも最も新しいスポット、『道の駅にしかた』を紹介しましょう。

道の駅にしかたは、県内17番目の道の駅として、平成21年11月22日、西方町役場西側の国道293号沿いにオープンしました。

西方町は西方五千石とも呼ばれる米どころです。また、いちごをはじめ四季折々の旬な野菜なども生産しています。道の駅にしかたでは、町の特産品である「いちご」をメインとし、西方産ブランド米コシヒカリ「桜おとめ」や地場産農産物、農産物加工品を販売する「農産物直売所 ふれあいの郷」、地域食材を使用した「農村レストラン ふるさと一番」、西方ならではの特産品や民芸品、お土産などの販売を行う「交流物産館 さくら」などの施設を整備し幅広い年齢層の方たちに楽しんで利用していただいています。

また、定期的にイベントを開催するなど人と人とのふれあ

いの場としても活用される、魅力あふれる施設です。

地元産の素材をたくさん取り揃えた商品がたくさん取り揃えています。また、一番のお薦めは手作りのジェラートです。中でも新鮮な牛乳と、町の特産品である「いちご」(とちおとめ)をぜいたくに混ぜ合わせたジェラートが人気です。食感のなめらかさが自慢です。他にも季節感あふれるオリジナルジェラートを取りそろえています。ぜひご賞味ください。

◆問合先

合併調整管理室 ☎(29)1107



▶道の駅にしかたの手作りジェラート

栃木市・岩舟町合併協議会の
協議経過について

これまで2回の合併協議会が開催されましたので、協議結果をお知らせします。

5月13日の第1回目において、平成23年度の事業計画・予算、合併協定項目およびその調整方針が承認されました。予算の審議においては、今後必要に応じて一段の予算措置を講じることが確認されています。

7月7日の第2回目において、茂呂副会長(岩舟町長)から提案があり、岩舟町の合併の意思を問う住民投票の結果が出るまでの間は、合併協議会がしばらく延期されることになりました。

来るべき住民投票で栃木市が選ばれたときは、第3回目の合併協議会から本格的な合併協議に入れるよう、今後も岩舟町との合併に、積極的に取り組んでいきます。

引き続き市民の皆さんのご理解・ご支援をお願いします。

◆問合先

合併調整管理室 ☎(29)1107

歌麿通信 『月』に善野家の家紋

九枚の笹の葉で構成された「九枚笹」と呼ばれる家紋。栃木の豪商だった善野三家(釜喜、釜佐、釜伊)の家紋です。歌麿の肉筆大作「月」をよく見ると、この家紋が絵の中に描き込まれています。品川湾を背景に、立って話をしている二人のうち、向かって右側の女性の肩にある家紋がそうです。

歌麿はなぜ、この家紋を絵の中に描き込んだのでしょうか。歌麿は釜伊の依頼で「雪」「月」「花」三幅対を描いたといわれており、依頼主の意を汲んで家紋を書き入れたと考えるのが自然でしょう。この家紋は善野家の菩提寺、近龍寺(万町)の本堂の照明などに見ることが出来ます。

善野家は、現在の滋賀県守山市出身の近江商人で、江戸時代に栃木に came ました。守山市の善野家の本家によると、「九枚笹」は千四百年も続く東門院の神事の際にのみ使うもので、家紋は別(鷹の羽のぶっちがい)。栃木市に came した善野家が家紋として用い始めたようです。

歌麿はいつ、どこで生まれたのかも不明で、出自を裏付ける資料も残っていませんが、滋賀県守山市出身で総理大臣だった故・宇野宗佑氏は著書「中仙道守山宿」の中で、守山から出た善野氏の一族から歌麿が現れたと書いています。

「月」に「九枚笹」を書き入れた歌麿は、もしかするとこの家紋のいわれについても知っていたのかもしれない。



▶近龍寺の「九枚笹」の家紋の入った照明

探しています。歌麿に関する情報!! ★提供は **本** 文化課 学芸推進担当 (☎21-2426) へ